

HP OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server

ソフトウェアバージョン: 1.00

HP Operations Manager i (Linux および Windows® オペレーティング システム)

インストールガイド

ドキュメントリリース日: 2015 年 1 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 9 月



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft グループの米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=>

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、HP Passport のサインイン ページで **[アカウントを作成してください]** ボタンをクリックしてください。

サポート

次の HP ソフトウェアサポートの Web サイトを参照してください。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions & Integrations and Best Practices

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) を参照してください。このサイトでは、HP ソフトウェアのカタログに記載された製品の説明を確認したり、情報を交換したり、ビジネス ニーズを解決することができます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) からは、さまざまなベスト プラクティス文書や資料にアクセスすることができます。

目次

第1章: はじめに	6
このマニュアルで使われている略語	6
関連ドキュメント	7
ライセンス	7
第2章: OMi MP for IBM WebSphere Application Server のインストール	8
インストールメディア	8
インストールの前提条件	9
ソフトウェア要件	9
BSM サーバでのソフトウェア要件	9
OMi サーバでのソフトウェア要件	10
ユーザ権限	11
インストール時のチェックリスト	11
BSM サーバ用チェックリスト	11
OMi サーバ用チェックリスト	12
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール	13
分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール	14
BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール	14
BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール	15
一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール	17
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール	19
OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 のインストール	19
BSM または OMi での OMi MP for IBM WebSphere Application Server バージョン 1.00 のインストール	19
Linux BSM または OMi サーバの場合	19
Windows BSM または OMi サーバの場合	21
Operations Orchestration (OO) フローのインストール	22
OO フローのアップロード	22
ライセンスの適用	23
OMi MP for IBM WebSphere Application Server のインストールの確認	24
Solaris 管理対象ノードでのライブラリパスの設定	25
パフォーマンス監視 インフラストラクチャ (PMI) カウンタの設定	26

第3章: 作業の開始	28
BSM コンソールでの作業の開始	28
タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加	28
タスク 2: トポロジ同期設定の確認	29
タスク 3: エンリッチメント ルールの有効化	29
タスク 4: WebSphere 検出アスペクトのデプロイ	30
タスク 5: 検出の確認	31
タスク 6: WebSphere 管理テンプレートまたは WebSphere アスペクトのデプロイ	32
タスク 6a: WebSphere 管理テンプレートの特定とデプロイ	32
タスク 6b: WebSphere アスペクトのデプロイ	35
タスク 7: 拡張トポロジの検出の確認	37
OMi コンソールでの作業の開始	38
タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加	38
タスク 2: トポロジ同期設定の確認	39
タスク 3: エンリッチメント ルールの有効化	39
タスク 4: WebSphere 検出アスペクトのデプロイ	40
タスク 5: 検出の確認	41
タスク 6: WebSphere 管理テンプレートまたは WebSphere アスペクトのデプロイ	42
タスク 6a: WebSphere 管理テンプレートの特定とデプロイ	42
タスク 6b: WebSphere アスペクトのデプロイ	44
タスク 7: 拡張トポロジの検出の確認	47
ドキュメントのフィードバックを送信	49

第1章: はじめに

HP OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server (OMi MP for IBM WebSphere Application Server) では、HP Operations Manager i (OMi) と連携し、環境内で稼働する IBM WebSphere アプリケーション サーバの主要および詳細コンポーネントと基盤インフラストラクチャを監視できます。OMi MP for IBM WebSphere Application Server では、IBM WebSphere アプリケーション サーバの状況やステータスを監視する目的で、次のコンポーネントが提供されています。

- WebSphere 管理テンプレート
- WebSphere のアスペクトとポリシー テンプレート
- パラメータ
- ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー
- イベント タイプ インジケータ (ETI)
- 状況 インジケータ (HI)
- トポロジ ベースのイベント相関処理 (TBEC) ルール
- HI 割り当て
- Operations Orchestration (OO) フロー
- 主要業績評価指標 (KPI) 割り当て
- グラフテンプレート
- ツール

注: コンポーネントの詳細は、OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server のオンラインヘルプまたはオンラインヘルプの PDF 版を参照してください。

このマニュアルで使われている略語

名称	説明
BSM	Business Service Management
OMi	HP Operations Manager i

名称	説明
RTSM	ランタイム サービス モデル
MPDVD	OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server DVD
BSM DPS	BSM データ処理 サーバ
BSM GWS	BSM ゲートウェイ サーバ
OMi MP	HP OMi Management Pack
OMi MP for IBM WebSphere Application Server	HP OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server

関連ドキュメント

BSM および Monitoring Automation についての詳細は、BSM マニュアルを参照してください。

OMi についての詳細は、次のドキュメントを参照してください。

OMi MP for IBM WebSphere Application Server の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- リリースノート
- オンラインヘルプのPDF版

ライセンス

OMi MP のライセンスは、25 ライセンスがパッケージで提供されます。アプリケーションのタイプに関わらず、OS インスタンスごとに1ライセンスを使用します。たとえば、ライセンスパックには、OMi MP for Microsoft SQL Server のライセンス5個、OMi MP for Oracle Database のライセンス10個を、サポートされているその他のアプリケーションと組み合わせて含めることができます。

Entitlement Order Number (EON) のライセンスを取得するには、www.hp.com/software/licensing にアクセスし、HP Passport の資格情報でログインします。

ライセンスの適用の詳細は、「[ライセンスの適用](#)」を参照してください。

第2章: OMi MP for IBM WebSphere Application Server のインストール



この項では、BSM サーバ(Linux and Windows) および OMi サーバ(Linux and Windows) での OMi MP for IBM WebSphere Application Server のインストールについて説明します。

インストールメディア

この項では、OMi MP for IBM WebSphere Application Server のインストールメディアについて説明します。OMi MP for IBM WebSphere Application Server は OMi MP for IBM WebSphere Application Server DVD (MPDVD) および電子メディアに収録されています。MPDVD および電子メディアは、英語および英語以外のロケール環境に対応しています。ロケール要件に基づき、適切なインストールメディアを使用できます。

OMi MP for IBM WebSphere Application Server DVD および電子メディアには、ソフトウェアおよび製品マニュアルが収録されています。分散環境では、すべての BSM データ処理サーバ(BSM DPS) とゲートウェイサーバ(BSM GWS) にインストールする必要があります。

次の表に、MPDVD と電子メディアに収録されているドキュメントの情報を記します。

ドキュメント	場所	目的
オンライン ヘルプ	BSM コンソールの [ヘルプ] メニューで利用できます。 BSM コンソールから、 [ヘルプ] > [BSM ヘルプ] > [Application Administration] > [Operations Management] > [OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server] に移動します。 OMi コンソールの  メニューから使用可能。 OMi コンソールから、  >[全般的なヘルプ] > [管理ガイド] > [管理パック] > [OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server] に移動します。	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">管理テンプレートの使用アспектおよびポリシーテンプレートの使用HI と ETI の各インジケータおよび TBEC ルールの使用
インストールガイド	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
オンライン ヘルプの PDF 版	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	

ドキュメント	場所	目的
リリースノート	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">• 主要な機能• インストールについて

インストールの前提条件

以下の項では、BSM (Linux および Windows) サーバおよび OMi (Linux および Windows) サーバでの OMi MP for IBM WebSphere Application Server のインストールに関するハードウェアおよびソフトウェアの前提条件を一覧表示します。

ソフトウェア要件

OMi MP for IBM WebSphere Application Server を BSM サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[BSM サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

OMi MP for IBM WebSphere Application Server を OMi サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[OMi サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

BSM サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for IBM WebSphere Application Server バージョン 1.00 をインストールする前に、BSM サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

コンポーネント	バージョン
BSM	9.23 以降*
HP Monitoring Automation	9.23 以降*
OMi MP for Infrastructure	1.10
OMi MP for Oracle Database(オプション)	1.10

注: IBM WebSphere アプリケーション サーバ、Oracle データベース、および複合アプリケーションとしての基盤インフラストラクチャ要素を監視するには、OMi MP for IBM WebSphere Application Server および OMi MP for Infrastructure に加えて OMi MP for Oracle Database をインストールする必要があります。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 以降を使用することをお勧めします。

管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.12 以降*
JRE	1.6 以降

注: * サポート マトリックスの詳細は、
<http://support.openview.hp.com/selfsolve/document/KM323488> を参照してください。

OMi サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for IBM WebSphere Application Server バージョン 1.00 をインストールする前に、OMi サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

コンポーネント	バージョン
OMi MP for Infrastructure	1.10
OMi MP for Oracle Database(オプション)	1.10

注: IBM WebSphere アプリケーション サーバ、Oracle データベース、および複合アプリケーションとしての基盤インフラストラクチャ要素を監視するには、OMi MP for IBM WebSphere Application Server および OMi MP for Infrastructure に加えて OMi MP for Oracle Database をインストールする必要があります。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 以降を使用することをお勧めします。

管理ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.12 以降*
JRE	1.6 以降

注: * サポート マトリックスの詳細は、
<http://support.openview.hp.com/selfsolve/document/KM323488> を参照してください。

ユーザ権限

ユーザには、WebSphere Admin Server 用に割り当てられたローカルの WebSphere 管理者権限が必要です。

LDAP ディレクトリを使用している場合は、ローカルの WebSphere インスタンスに LDAP のユーザアカウントと同じようなユーザアカウントを作成し、そのユーザに管理者権限を付与する必要があります。

インストール時のチェックリスト

OMi MP for IBM WebSphere Application Server を BSM サーバにインストールする場合は、[「BSM サーバ用チェックリスト」](#)を参照してください。

OMi MP for IBM WebSphere Application Server を OMi サーバにインストールする場合は、[「OMi サーバ用チェックリスト」](#)を参照してください。

BSM サーバ用チェックリスト

OMi MP for IBM WebSphere Application Server のインストールでは、次の表にまとめたタスクを指定の順序で事前に実行します。

タスク	参照先
BSM のインストールに必要な前提条件のチェック	『BSM インストールガイド』の「一般的な前提条件」を参照してください。
BSM バージョン 9.23 以降のインストール	『BSM インストールガイド』の「BSM 9.20 のインストール」および「最新の BSM 9.2x マイナー マイナー リリースとパッチのインストール」を参照してください。
Monitoring Automation バージョン 9.23 以降のインストール	『Operations Manager i Monitoring Automation インストールガイド』の「Monitoring Automation のインストール」を参照してください。
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のクリーンアップ	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 からバージョン 1.10 への移行」を参照してください。
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール	「Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール」 の項を参照してください。

タスク	参照先
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for Oracle Database 1.10 のインストール (オプション)	『HP OMi Management Pack for Oracle Database インストールガイド』の「BSM での OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for IBM WebSphere Application Server 1.00 のインストール	「BSM または OMi での OMi MP for IBM WebSphere Application Server バージョン 1.00 のインストール」 の項を参照してください。
ライセンスの適用	「ライセンスの適用」 の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.12 以降のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.12 (HP Operations Agent 11.12 のインストール)」を参照してください。
管理対象ノードでのライブラリパスの設定*	「Solaris 管理対象ノードでのライブラリパスの設定」 の項を参照してください。
パフォーマンス監視 インフラストラクチャ カウンタの設定	「パフォーマンス監視 インフラストラクチャ (PMI) カウンタの設定」 の項を参照してください。

* このチェック項目は、Solaris 管理対象ノードのみに適用されます。

OMi サーバ用チェックリスト

OMi MP for IBM WebSphere Application Server のインストールでは、次の表にまとめたタスクを指定の順序で事前に実行します。

タスク	参照先
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のクリーンアップ	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 からバージョン 1.10 への移行」を参照してください。

タスク	参照先
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for Oracle Database 1.10 のインストール (オプション)	『HP OMi Management Pack for Oracle Database インストールガイド』の「BSM での OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for IBM WebSphere Application Server 1.00 のインストール	「BSM または OMi での OMi MP for IBM WebSphere Application Server バージョン 1.00 のインストール」 の項を参照してください。
ライセンスの適用	「ライセンスの適用」 の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.12 以降のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.12 (HP Operations Agent 11.12 のインストール)」を参照してください。
管理対象ノードでのライブラリパスの設定*	「Solaris 管理対象ノードでのライブラリパスの設定」 の項を参照してください。
パフォーマンス監視 インフラストラクチャ カウンタの設定	「パフォーマンス監視 インフラストラクチャ (PMI) カウンタの設定」 の項を参照してください。

* このチェック項目は、Solaris 管理対象ノードのみに適用されます。

Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール

注: BSM 9.23 に限り、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。

OMi MP for IBM WebSphere Application Server をインストールする前に、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。Monitoring Automation 9.24 以降のバージョンを使用している場合、この追加のソフトウェア更新のインストールは不要です。Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新は MPDVD に収録されています。

分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

この項では、分散 BSM 環境でのソフトウェア更新のインストールの詳細について説明します。分散 BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を異なるシステムで使用できます。追加のソフトウェア更新は、BSM DPS と BSM GWS の両方にインストールする必要があります。

分散 BSM 環境ではない場合、次の項をスキップして「[一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール](#)」を参照してください。

BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM DPS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-content-server.war ファイルのバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps  
  
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-content-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps  
  
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-content-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM DPS で実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-content-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-content-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-content-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi -noGW
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi -noGW
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM GWS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war ファイルのバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps  
  
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps  
  
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM GWS で実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```


5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

一般的な BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を同じシステムで使用できます。一般的な BSM 環境で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war のバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps  
  
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps  
  
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM サーバで実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール

OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストールの詳細は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「BSM での OMi MP for Infrastructure バージョン 1.10 のインストール」の章を参照してください。

OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 のインストール

OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 のインストールの詳細は、『OMi Management Pack for Oracle Database インストールガイド』の「OMi MP for Oracle Database バージョン 1.10 の BSM へのインストール」を参照してください。

BSM または OMi での OMi MP for IBM WebSphere Application Server バージョン 1.00 のインストール

OMi MP for IBM WebSphere Application Server を BSM サーバ (Linux または Windows) または OMi サーバ (Linux または Windows) にインストールするには、MPDVD を使用します。この項では、OMi MP for IBM WebSphere Application Server を BSM サーバまたは OMi サーバにインストールする手順について説明します。

注: BSM 分散環境では、OMi MP for IBM WebSphere Application Server がすべての BSM サーバ (BSM DPS および BSM GWS) にインストールされている必要があります。インストールを進める前に、Monitoring Automation が実行中であることを確認する必要があります。ステータスを確認するには、BSM コンソールにログオンし、[管理] > [セットアップと保守] > [サーバデプロイメント] に移動して、Monitoring Automation が有効かどうかを確認します。

Linux BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for IBM WebSphere Application Server を Linux BSM/OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. root ユーザとしてログオンします。
2. コマンド `umask 022` を入力して、`umask` を設定します。
3. コマンド `mkdir /<mount_point>` を入力して、DVD または電子メディアをマウントするディレクトリを作成します。

例: `mkdir /dvdrom`

4. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、次のコマンドを使用してマウントします。

DVD の場合: `mount /dev/<dvdrom_drive_name> /<mount_point>`

電子メディアの場合: `mount -o loop <e-media> /<mount_point>`

5. ディレクトリを `/<mount_point>` に変更します。
6. 次のコマンドを実行します。

`./mpinstall.sh -i [-h|help]`

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i</code>
英語以外の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i -locale <mplocale></code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for をインストールするには、次のコマンドを指定します。

`./mpinstall.sh -i -locale zh_CN`

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

`mpinstall.sh -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]`

`-i`: Management Pack をインストールします。

`-locale`: インストールするロケール専用の Management Pack。

`-h|-help`: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール

7. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

注: 使用許諾契約書 (EULA) に同意しない場合、OMi MP for IBM WebSphere Application Server はインストールされません。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

Windows BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for IBM WebSphere Application Server を Windows BSM または OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。x

1. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、展開します。
2. コマンド プロンプトを開き、<DVD-ROM> または電子メディアのディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <mplocale>] [-h|-help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	cscript /nologo mpinstall.vbs -i	cscript /nologo mpinstall.vbs -i
英語以外の DVD	cscript /nologo mpinstall.vbs -i	cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale <MP のロケール>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for IBM WebSphere Application Server をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

-i: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール

3. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

Operations Orchestration (OO) フローのインストール

OMi MP for IBM WebSphere Application Server の OO フローでは、IT プロセスの自動化とランブックの自動化が可能です。OO フローの詳細は、Operations Orchestration のドキュメントを参照してください。次の項では、OMi MP for IBM WebSphere Application Server での HP OO Studio (バージョン 9.0x) の OO フローのインストールについて説明します。

注: OMi MP for IBM WebSphere Application Server に付属する OO フローは、HP Operations Manager (HPOM) サーバで管理される Smart Plug-in でアプリケーションを監視するデプロイメントシナリオでのみ使用できます。この場合、OMi MP for IBM WebSphere Application Server に含まれた OO フローを OO サーバにインストールし、OMi-OO 統合を通じて OO フローを起動できます。OMi-OO 統合の詳細は、『BSM - Operations Orchestration Integration Guide』を参照してください。

OO フローのアップロード

OMi MP for IBM WebSphere Application Server から OO フローをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. BSM で次のディレクトリに移動します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/conf/opr/oo
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\conf\opr\oo
```

2. **HP0prOOJEE90.jar** を、HP OO Studio (バージョン 9.0x) がインストールされているシステムの一時的ディレクトリにコピーします。

次のコマンドを実行して、OO フローをインストールおよびアップロードします。

```
java -jar -Xmx1024m "<temp>/HP0prOOJEE90" -centralPassword <centralpassword>
```

注: コンテンツのインストールの詳細は、『HP Operations Orchestration Software Development Kit Guide』の「Installing the content」を参照してください。

HP OO Studio を使用して、次の場所から OO フローにアクセスできます。

```
../Library/Operations Management/..
```

3. BSM コンソールから、OO フローを CI にマッピングし、OO フローの入力変数を CI 属性にマッピングします。

BSM では、**[管理] > [統合] > [Operations Orchestration]** をクリックします。

OMi では、**[管理] > [操作コンソール] > [ランブックマッピング]** をクリックします。

ライセンスの適用

この項では、ライセンスの更新とアクティブ化について説明します。

注: ライセンスの取得の詳細は、「[ライセンス](#)」を参照してください。


新しいライセンスでデプロイメントを更新し、ライセンスをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

1. **[ライセンス管理]** に移動します。

BSM で **[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理]** をクリックします。

OMi では、**[管理] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理]** をクリックします。

ライセンス管理では、名前、ライセンスのタイプ、期限切れまでの残り日数、有効期限、ライセンス数などの情報が表示されます。

2.  をクリックして **[ライセンスの追加]** ダイアログボックスを開き、使用する .dat ファイルを検索します。

注: .dat ファイルは www.hp.com/software/licensing からダウンロードできます。

注: インストール後のライセンスアクティブ化には遅延があります。ライセンスが自動的にアクティブ化されない場合、ステップ3を実行する必要があります。

3. (オプション)ライセンスをアクティブ化するには、[ライセンス管理] ウィンドウの下にある [サーバデプロイメント] リンクをクリックします。

OMi MP for IBM WebSphere Application Server のインストールの確認

この項では、Linux および Windows BSM サーバでの OMi MP for IBM WebSphere Application Server のインストールの確認について説明します。

OMi MP for IBM WebSphere Application Server のインストールは、次の手順で確認できます。

- 以下の場所で BSM GWS、BSM DPS、および BSM の一般サーバのログファイルのエラーをチェックします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/log/mpinstall.log
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\log\mpinstall.log
```

- 次の場所をチェックします。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server** が表示されている必要があります。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server** が表示されている必要があります。

- BSM サーバにインストールされている OMi MP をリストするには、以下のコマンドを実行します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/bin/ContentManager.sh -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -l
```


Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\ContentManager.bat -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -  
1
```

注: ContentManager.bat または ContentManager.sh コマンドで、コンテンツパックの名前とバージョンがリスト表示されます。

注: 次の場所に、BSM GWS と BSM DPS の両方の OMi ログファイルがあります。

Linux の場合: /opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-configserver.log

Windows の場合: %TOPAZ_HOME%\log\EJBContainer\opr-configserver.log

Solaris 管理対象ノードでのライブラリパスの設定

この項では、Solaris 管理対象ノードでのライブラリパスの設定について説明します。

注: 次の設定が必要になるのは、Solaris プラットフォーム上で管理対象ノードを監視するのに使用する OMi MP for IBM WebSphere Application Server のみです。

OMi MP for IBM WebSphere Application Server で Solaris プラットフォーム上の管理対象ノードを監視するには、エージェント ユーザとして次の手順を使用し、XML パーサ Perl モジュールで使用する Expat.so ライブラリに必要なすべてのライブラリの動的依存関係を解決できるようにする必要があります。

1. Expat.so ライブラリを見つけるには、次のコマンドを実行します。

```
cd /opt/0V/non0V/perl/a/lib
```

```
find .-name Expat.so
```

2. 動的依存関係のリストを見つけるには、次のコマンドを実行します。

```
Go to <Expat.so> path
```

```
ldd Expat.so
```

libgcc_s.so で「ファイルが見つかりません」というエラーメッセージが表示される場合は、次のステップ 3 を実行し、Solaris 管理対象ノードの MPLD_LIBRARY_PATH 環境変数で libgcc_s.so ライブラリパスを設定します。

3. 次の手順を実行し、root ユーザとして MPLD_LIBRARY_PATH 環境変数の libgcc_s.so ライブラリパスを設定します。

- a. 次のコマンドを使用して、Solaris 管理対象ノードで libgcc_s.so を検索します。

```
find / -name libgcc_s.so
```

- b. 次のコマンドを使用して、32ビットの libgcc_s.so を検索します。

```
file <libgcc_s.so とパス>
```

- c. 32ビットの libgcc_s.so がインストールされていない場合は、GCC ランタイムライブラリパッケージをインストールします。

- d. 次のコマンドを使用して、vi エディタで /etc/profile を開きます。

```
vi /etc/profile
```

- e. /etc/profile ファイルの先頭に次の行を追加します。

```
MPLD_LIBRARY_PATH=<32-bit libgcc_s.so path>  
export MPLD_LIBRARY_PATH
```

注: 32-bit libgcc_s.so のパスは、ステップ2で取得した結果です。

- f. ファイルを保存します。

パフォーマンス監視インフラストラクチャ(PMI)カウンタの設定

この項では、PMI カウンタの設定と、管理対象ノードでの IBM WebSphere Application Server 用 ConfigProxy MBean の有効化について説明します。

タスク 1: PMI カウンタの設定

パフォーマンスデータを収集するには、事前に PMI カウンタを有効にする必要があります。すべてのメトリックを取得するには、IBM WebSphere Application Server に対して WebSphere PMI カウンタのインストールメソッドレベルを [すべて] に設定する必要があります。

WebSphere PMI カウンタを設定するには、次の手順を実行します。

1. WebSphere Admin コンソールで、[サーバ] > [サーバタイプ] > [WebSphere Application Server] をクリックします。
2. [アプリケーション サーバ] ペインで、[サーバ] リンクをクリックします。

[設定] タブが表示されます。

3. [設定] タブで、[パフォーマンス] > [パフォーマンス監視 インフラストラクチャ (PMI)] をクリックします。
4. [設定] タブの [一般プロパティ] の現在監視されている統計設定で、[すべて] を選択します。
5. [OK] をクリックします。

タスク 2: ConfigProxy MBean の有効化

JDBC コンポーネントの検出と監視を行うには、ConfigProxy MBean を有効にする必要があります。

ConfigProxy MBean を有効にするには、以下の手順を実行します。

1. WebSphere Admin コンソールで、[サーバ] > [サーバタイプ] > [WebSphere Application Server] をクリックします。
2. [アプリケーション サーバ] ペインで、[サーバ] リンクをクリックします。

[設定] タブが表示されます。

3. [設定] タブで、[サーバ インフラストラクチャ] > [管理] > [管理 サービス] > [カスタム プロパティ] をクリックします。
4. `com.ibm.websphere.management.enableConfigMBean` プロパティが存在する場合は、次の手順を実行して [ステップ 6](#) に進みます。存在しない場合は、[ステップ 5](#) に進みます。

- a. `com.ibm.websphere.management.enableConfigMBean` プロパティをクリックします。

[設定] タブが表示されます。

- b. 値を **true** に設定します。
5. `com.ibm.websphere.management.enableConfigMBean` プロパティが存在しない場合、次の手順を実行します。
 - a. [New] をクリックします。
 - b. [Configuration] タブの [General Properties] で、名前を `com.ibm.websphere.management.enableConfigMBean` と指定します。
 - c. 値を **true** に指定します。
 6. [OK] をクリックします。
 7. WebSphere Application Server を再起動します。

第3章: 作業の開始

この項では、IBM WebSphere Application Server を監視するための HP OMi MP for IBM WebSphere Application Server のコンポーネントのデプロイについて手順を追って説明します。IBM WebSphere Application Server のイベント、状況、およびパフォーマンスの各パースペクティブへのアクセスと表示方法についても説明します。

BSM コンソールでの作業の開始の詳細については、「[BSM コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

OMi コンソールでの作業の開始の詳細については、「[OMi コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

BSM コンソールでの作業の開始

この項では、BSM コンソールから IBM WebSphere Application Server の監視について手順を追って説明します。

タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加


注: 監視対象の WebSphere Application Server が Smart Plug-in for WebSphere Application Server (SPI for WebSphere Application Server) によってすでに監視されている場合は、先に進む前に、WebSphere Application Server をホストしている管理対象ノードから SPI アーティファクトとデータソースを削除してください。

注: RTSM にノードが既に存在する場合、このステップをスキップしてタスク 2 に進むことができます。

監視を始める前に、BSM コンソールにノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] ページから [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタ対象ノード]

2. [ノード ビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、 をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [Unix] を選択します。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。


タスク2: トポロジ同期設定の確認

注: ノードまたは構成アイテム (CI) を HP Operations Manager で監視している場合、トポロジ同期の設定を確認することをお勧めします。

1. [オペレーション管理の管理] から [インフラストラクチャ設定] を開きます。
[管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャの設定]
2. [インフラストラクチャ設定] マネージャで、[アプリケーション] > [オペレーション管理] を選択します。
3. [オペレーション管理] の [HPOM トポロジ同期設定] で、Topology Sync のパッケージにはトポロジ同期に使用するパッケージが含まれます。他のパッケージに加えて、**default;nodegroups;operations-agent;HPOprSys;HPOprJEE** パッケージがあることを確認してください。

タスク3: エンリッチメント ルールの有効化

同じ名前の複数の j2eedomain CI を 1 つの CI エンティティとして調整するには、エンリッチメント ルールを有効にする必要があります。エンリッチメント ルールを有効にするには、以下の手順を実行します。

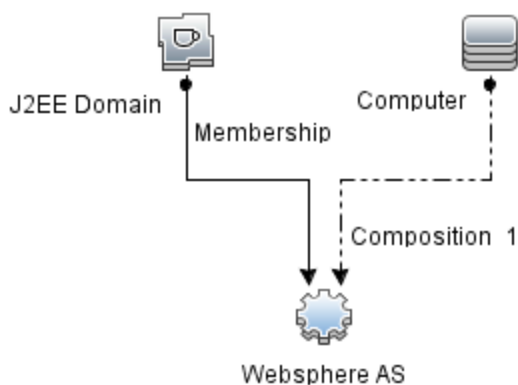
1. [エンリッチメント マネージャ] を開きます。
[管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [エンリッチメント マネージャ]
2. [エンリッチメント ルール] ペインで、リストから **[SoftwareElementDisplayLabelForNewHost]** を選択します。
3. 右クリックして **[プロパティ]** を選択します。[エンリッチメント ルールのプロパティ] ウィンドウが開きます。
4. **[次へ]** をクリックします。
5. **[ルールを有効にする]** を選択します。
6. **[完了]** をクリックします。
7. [エンリッチメント ルール] ペインで、 をクリックして変更を保存します。
8. [エンリッチメント ルール] ペインで、**[Root] > [Operations Management] > [J2EE Application Servers]** をクリックします。
9. **WebSphereJ2EEDomainReconciliation** を選択しステップ 3 ~ 7 を繰り返します。

タスク 4: WebSphere 検出アスペクトのデプロイ

WebSphere 検出アスペクトにより、環境内の IBM WebSphere Application Server インスタンスを検出できます。追加した管理対象ノード上の IBM WebSphere Application Server CI を検出するには、WebSphere 検出アスペクトを Computer CI にデプロイする必要があります。

WebSphere 検出アスペクトのデプロイメントにより、次の CI タイプ (CIT) の構成アイテム (CI) が検出されます。

- j2eedomain
- websphereas




WebSphere 検出アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。


[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [IBM WebSphere 管理] > [アスペクト]

3. [アスペクト] フォルダで **WebSphere 検出アスペクト** をクリックし、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。

4. **[構成アイテム]** タブで検出アスペクトをデプロイする構成アイテムを選択し、**[次へ]** をクリックします。

[必要なパラメータ] タブが開き、この割り当てに編集が必要なパラメータが存在しないことを示すメッセージが表示されます。

5. **[必要なパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** タブに進みます。

- (オプション) **[すべてのパラメータ]** タブで、**[WebSphere MPlog の頻度]** パラメータのデフォルト値を変更するには、このパラメータを選択して  をクリックします。**[パラメータの編集]** ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
- [すべてのパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックし、**[構成オプション]** タブに進みます。
- (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
- [完了]** をクリックします。

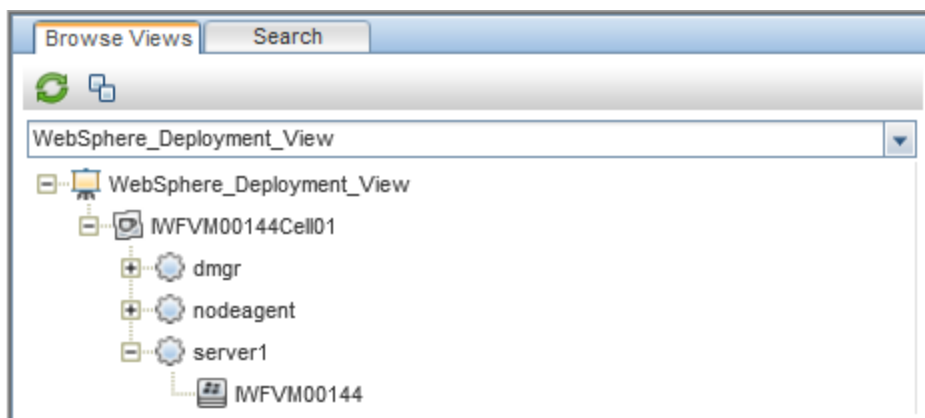
注: WebSphere 検出アスペクトをデプロイすると、**[割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました]** から始まるメッセージが表示されます。デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[デプロイメント ジョブ]** を選択します。

タスク5: 検出の確認

WebSphere 検出アスペクトをデプロイした後、**[View Explorer]** に CI が表示されるかどうかを確認できます。

- [アプリケーション]** > **[オペレーション管理]** > **[Event Perspective]** をクリックします。

[View Explorer] で、ドロップダウンリストから **[WebSphere_Deployment_View]** を選択します。次の図に示すように、**WebSphere_Deployment_View** に関連付けられている CI を確認できます。



タスク 6: WebSphere 管理テンプレートまたは WebSphere アスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite アプリケーション ライセンスを使用している場合は、WebSphere 管理テンプレートを j2eedomain CI にデプロイするか、または WebSphere アスペクトを websphereas CI にデプロイできます。WebSphere 管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 6a: WebSphere 管理テンプレートの特定とデプロイ](#)」を参照してください。WebSphere アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 6b: WebSphere アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

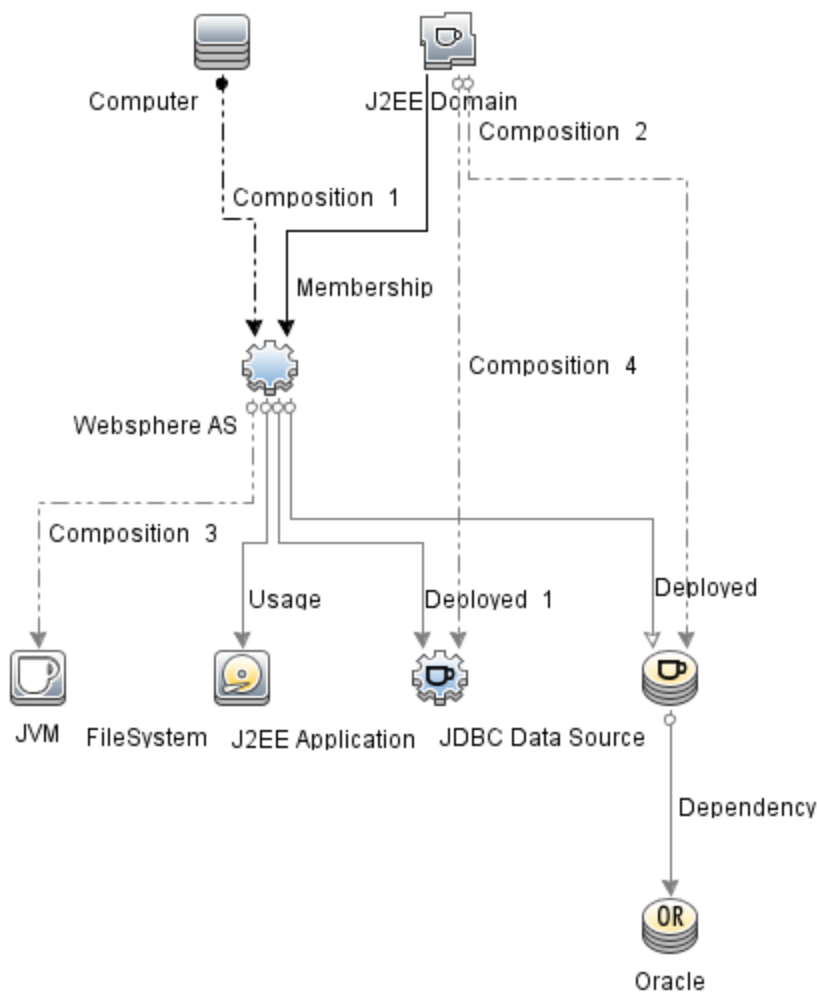
Monitoring Automation for Server ライセンスを使用している場合、WebSphere アスペクトをデプロイできます。WebSphere アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 6b: WebSphere アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

タスク 6a: WebSphere 管理テンプレートの特定とデプロイ

WebSphere 管理テンプレートをデプロイする前に、WebSphere 検出アスペクトをデプロイする必要があります。詳細については、「[タスク 4: WebSphere 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

WebSphere 管理テンプレートでは、次の CIT の CI を検出し、次の図に示すトポロジを完成します。

- JVM
- J2EE Application
- JDBC Data Source



以下の推奨事項に従って、それぞれの環境に適した WebSphere 管理テンプレートを特定します。

- IBM WebSphere Application Server の主要領域 (サーバステータス、JVM、JDBC、EJB、サーブレット、サーバログなど)を監視する場合、基本 WebSphere 管理テンプレートをデプロイします。
- IBM WebSphere Application Server の主要および詳細領域 (トランザクション、クラスタステータス、キャッシュ使用率、スレッドなど)を監視する場合、詳細 WebSphere 管理テンプレートをデプロイします。
- IBM WebSphere Application Server、Oracle データベース、および基盤インフラストラクチャで構成される複合アプリケーションを監視する場合、詳細 WebSphere および Oracle データベース管理テンプレートをデプロイします。



WebSphere 管理テンプレートを WebSphere セル CI (j2eedomain) にデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理 テンプレート および アスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート および アスペクト]


2. [構成 フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成 フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [IBM WebSphere 管理] > [管理 テンプレート]

3. [管理 テンプレート] フォルダでデプロイする管理 テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成 アイテム]** タブで管理 テンプレートを割り当てる j2ee ドメイン CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。**[Ctrl]** キーまたは **[Shift]** キーを押しながら選択すると、複数のアイテムを選択できます。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、表示されるすべてのパラメータ (ユーザ名 および パスワード) の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: 設定を続行するには、すべてのパラメータの値を指定する必要があります。

注: 管理 テンプレートのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、『OMi MP for IBM WebSphere Application Server インストールガイド』の「ユーザ権限」を参照してください。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。
7. **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理 テンプレート レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

注: データ収集用に設定したプロトコルが JSR160RMI である場合は、パラメータの値 ([WebSphere Application Server JMX コネクタ タイプ] および [WebSphere Application Server のポート番号]) を指定する必要があります。

8. **[次へ]** をクリックします。
9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

タスク 6b: WebSphere アスペクトのデプロイ

WebSphere アスペクトをデプロイする前に、次の CIT の CI を検出するため WebSphere ベース アスペクトをデプロイする必要があります。

- JVM
- J2EE Application
- JDBC Data Source


WebSphere ベースのアスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理 テンプレート およびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート およびアスペクト] をクリックします。


2. [構成 フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成 フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [IBM WebSphere 管理] > [アスペクト] > [WebSphere ベース] をクリックします。

3. [アスペクト] フォルダで、[WebSphere ベース] をクリックして、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。

4. [構成 アイテム] タブで WebSphere CI を選択し、[次へ] をクリックします。アイテムを複数選択するには、[CTRL] キーや [SHIFT] キーを押しながらアイテムを選択してください。[次へ] をクリックして CI を確認し、[必要なパラメータ] に進みます。


注: アスペクトをノード CI にデプロイする場合、[タイプ ノードの CI も表示する] を選択します。

5. [必要なパラメータ] タブで、表示されるすべてのパラメータ (ユーザ名 およびパスワード) の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。[値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。

注: 設定を続行するには、すべてのパラメータの値を指定する必要があります。

注: 管理 テンプレートのデプロイ時に与えられる資格情報には、HP OMi MP for IBM WebSphere Application Server のパフォーマンス管理データ収集権限が必要です。

6. [次へ] をクリックして [すべてのパラメータ] に進みます。
7. [すべてのパラメータ] タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管

理テンプレート レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

注: データ収集用に設定したプロトコルが JSR160RMI である場合は、パラメータの値 ([WebSphere Application Server JMX コネクタ タイプ] および [WebSphere Application Server のポート番号]) を指定する必要があります。

8. **[次へ]** をクリックします。
9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。


残りの WebSphere アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。


[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [IBM WebSphere 管理] > [アスペクト]

3. [アスペクト] フォルダでデプロイする WebSphere アスペクトをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで WebSphere アスペクトを割り当てる CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。

注: アスペクトをノード CI にデプロイする場合、**[タイプノードの CI も表示する]** を選択します。


5. **[必要なパラメータ]** タブで、表示されるすべてのパラメータ (ユーザ名 およびパスワード) の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: 設定を続行するには、すべてのパラメータの値を指定する必要があります。

注: WebSphere アスペクトのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、「[ユーザの権限](#)」を参照してください。

6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** に進みます。

注: データ収集用に設定したプロトコルがJSR160RMIである場合は、パラメータの値 ([WebSphere Application Server JMX コネクタタイプ] および [WebSphere Application Server のポート番号]) を指定する必要があります。

7. **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

注: データ収集用に設定したプロトコルがJSR160RMIである場合は、パラメータの値 ([WebSphere Application Server JMX コネクタタイプ] および [WebSphere Application Server のポート番号]) を指定する必要があります。

8. **[次へ]** をクリックします。
9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

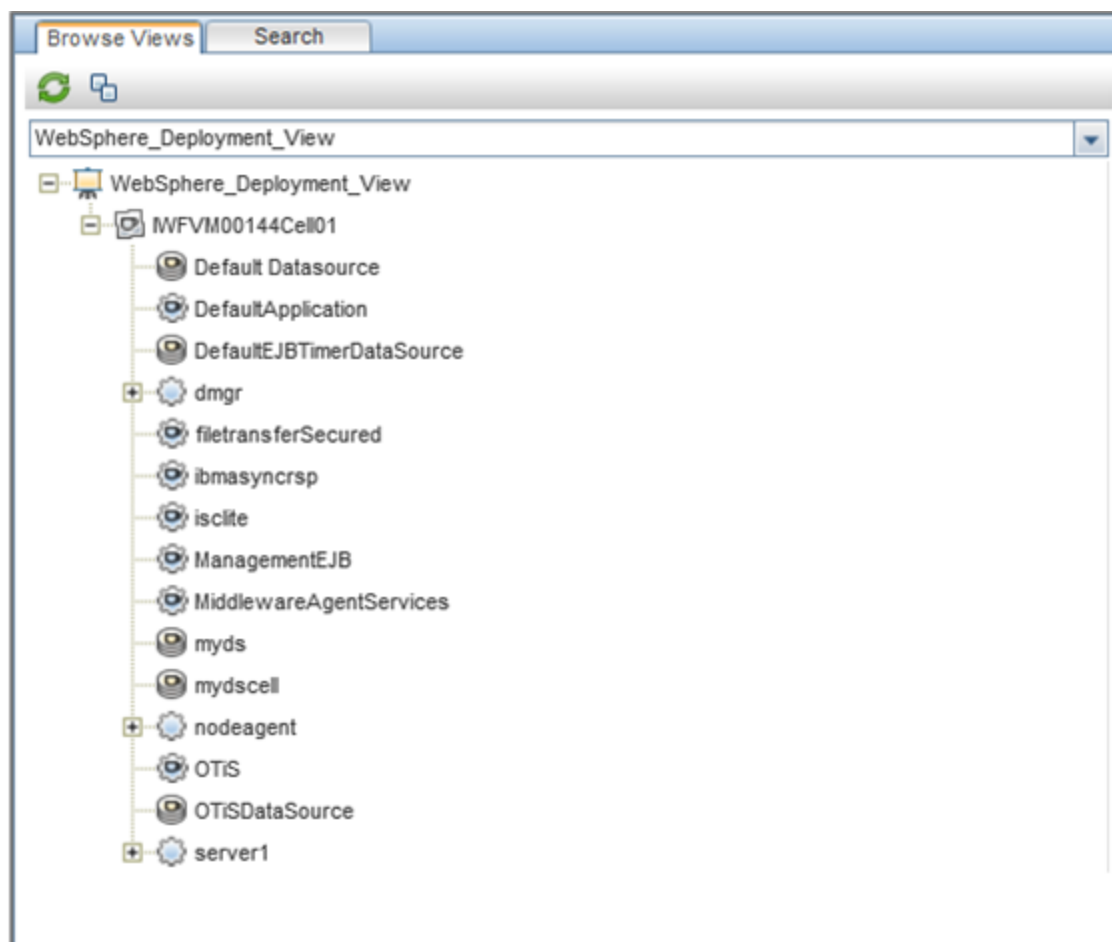
タスク 7: 拡張トポロジの検出の確認

WebSphere 管理テンプレートまたは WebSphere ベースアスペクトをデプロイした後、[View Explorer] に CI が表示されるかどうかを確認できます。

[View Explorer] で CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで **[アプリケーション]** > **[オペレーション管理]** > **[Event Perspective]** をクリックします。
2. [View Explorer] で、ドロップダウンリストから **[WebSphere_Deployment_View]** を選択します。次の図に示すように、**WebSphere_Deployment_View** に関連付けられている CI から構成される拡張

張トポロジを確認 できます。



OMi コンソールでの作業の開始

この項では、IBM WebSphere Application Server を監視するための OMi MP for IBM WebSphere Application Server のコンポーネントのデプロイについて手順を追って説明します。IBM WebSphere Application Server のイベント、状況、およびパフォーマンスの各パースペクティブへのアクセスと表示方法についても説明します。

タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加


注: 監視対象の WebSphere Application Server が Smart Plug-in for WebSphere Application Server (SPI for WebSphere Application Server) によってすでに監視されている場合は、先に進む前に、WebSphere Application Server をホストしている管理対象ノードから SPI アーティファクトとデータソースを削除してください。

注: RTSM にノードが既に存在する場合、このステップをスキップしてタスク2に進むことができます。

監視を始める前に、OMi コンソールにノードを追加する必要があります。

1. OMi コンソールから [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [モニタ対象ノード]

2. [ノードビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、 をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [Unix] を選択します。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリDNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

タスク2: トポロジ同期設定の確認

注: ノードまたは構成アイテム (CI) を HP Operations Manager で監視している場合、トポロジ同期の設定を確認することをお勧めします。

1. OMi コンソールから [インフラストラクチャ設定] を開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

2. [インフラストラクチャ設定] マネージャで、[アプリケーション] > [オペレーション管理] を選択します。
3. [オペレーション管理] の [HPOM トポロジ同期設定] で、Topology Sync のパッケージにはトポロジ同期に使用するパッケージが含まれます。他のパッケージに加えて、`default;nodegroups;operations-agent;HPOprSys;HPOprJEE` パッケージがあることを確認してください。


タスク3: エンリッチメント ルールの有効化

同じ名前の複数の j2eedomain CI を 1 つの CI エンティティとして調整するには、エンリッチメント ルールを有効にする必要があります。エンリッチメント ルールを有効にするには、以下の手順を実行します。

1. [エンリッチメント マネージャ] を開きます。

[管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [エンリッチメント マネージャ] をクリックします。

2. [エンリッチメント ルール] ペインで、リストから [SoftwareElementDisplayLabelForNewHost] を選択します。
3. 右クリックして [プロパティ] を選択します。[エンリッチメント ルールのプロパティ] ウィンドウが開きます。

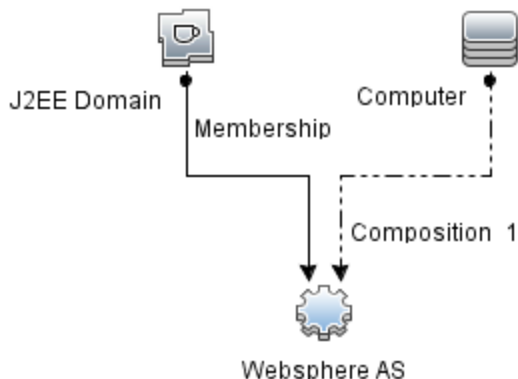
4. **[次へ]** をクリックします。
5. **[ルールを有効にする]** を選択します。
6. **[完了]** をクリックします。
7. [エンリッチメント ルール] ペインで、 をクリックして変更を保存します。
8. [エンリッチメント ルール] ペインで、**[Root] > [Operations Management] > [J2EE Application Servers]** をクリックします。
9. **WebSphereJ2EEDomainReconciliation** を選択しステップ 3 ~ 7 を繰り返します。

タスク 4: WebSphere 検出アスペクトのデプロイ

WebSphere 検出アスペクトにより、環境内の IBM WebSphere Application Server インスタンスを検出できます。追加した管理対象ノード上の IBM WebSphere Application Server CI を検出するには、WebSphere 検出アスペクトを Computer CI にデプロイする必要があります。

WebSphere 検出アスペクトのデプロイメントにより、次の CI タイプ (CIT) の構成アイテム (CI) が検出されます。



- j2eedomain
- websphereas



WebSphere 検出アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理 テンプレート および アスペクト] ペインを開きます。
[管理] > [監視] > [管理 テンプレート および アスペクト]
2. [構成 フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [IBM WebSphere 管理] > [アスペクト]

3. [アスペクト] フォルダで **WebSphere 検出** アスペクトをクリックし、 をクリックして [割り当てとデプロイ] ウィザードを開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで検出アスペクトをデプロイする構成アイテムを選択し、**[次へ]** をクリックします。
[必要なパラメータ] タブが開き、この割り当てに編集が必要なパラメータが存在しないことを示すメッセージが表示されます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。
6. (オプション) **[パラメータ サマリ]** タブで、[WebSphere MPlug の頻度] パラメータのデフォルト値を変更するには、このパラメータを選択して  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
7. **[パラメータ サマリ]** タブで **[次へ]** をクリックし、**[構成オプション]** タブに進みます。
8. (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
9. **[完了]** をクリックします。

注: WebSphere 検出アスペクトをデプロイすると、[割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました] から始まるメッセージが表示されます。デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理] > [監視] > [デプロイメント ジョブ]** を選択します。

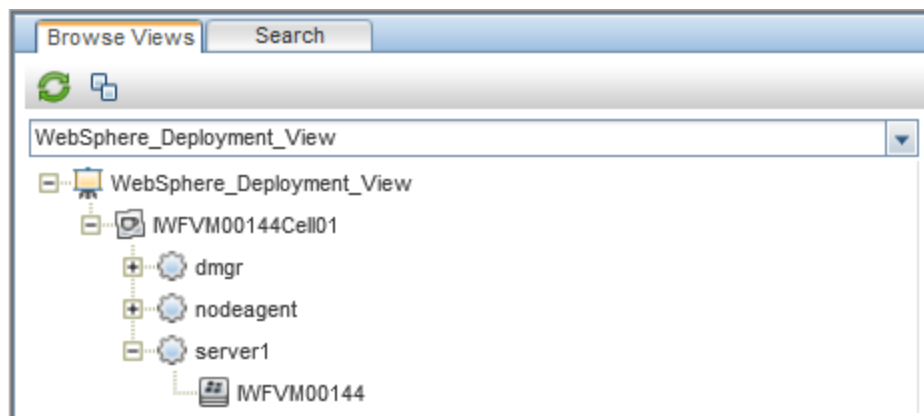
タスク 5: 検出の確認

WebSphere 検出アスペクトをデプロイした後、[View Explorer] に CI が表示されるかどうかを確認できます。

1. **[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Event Perspective]** をクリックします。

[View Explorer] で、ドロップダウン リストから **[WebSphere_Deployment_View]** を選択します。次

の図に示すように、**WebSphere_Deployment_View**に関連付けられているCIを確認できます。



タスク 6: WebSphere 管理テンプレートまたは WebSphere アスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite アプリケーション ライセンスを使用している場合は、WebSphere 管理テンプレートを j2eedomain CI にデプロイするか、または WebSphere アスペクトを webspHEREas CI にデプロイできます。WebSphere 管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 6a: WebSphere 管理テンプレートの特定制とデプロイ](#)」を参照してください。WebSphere アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 6b: WebSphere アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

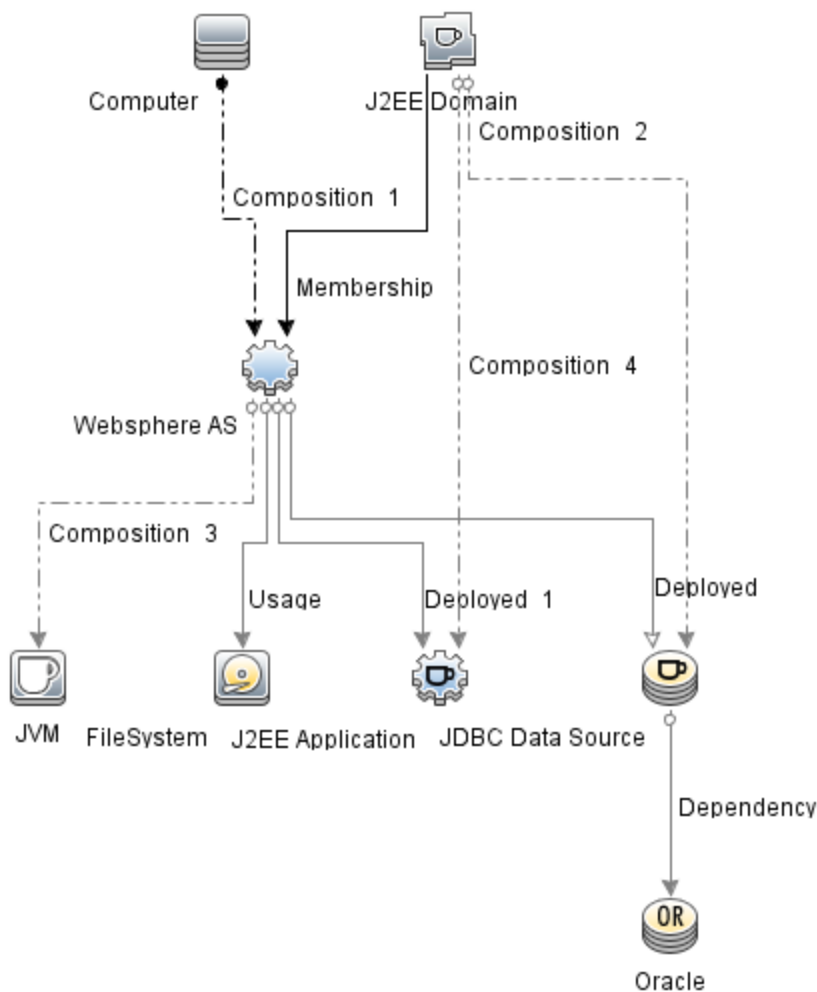
Monitoring Automation for Server ライセンスを使用している場合、WebSphere アスペクトをデプロイできます。WebSphere アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 6b: WebSphere アスペクトのデプロイ](#)」(44 ページ)を参照してください。

タスク 6a: WebSphere 管理テンプレートの特定制とデプロイ

WebSphere 管理テンプレートをデプロイする前に、WebSphere 検出アスペクトをデプロイする必要があります。詳細については、「[タスク 4: WebSphere 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

WebSphere 管理テンプレートでは、次の CIT の CI を検出し、次の図に示すトポロジを完成します。

- JVM
- J2EE Application
- JDBC Data Source



以下の推奨事項に従って、それぞれの環境に適した WebSphere 管理テンプレートを特定します。

- IBM WebSphere Application Server の主要領域 (サーバステータス、JVM、JDBC、EJB、サーブレット、サーバログなど)を監視する場合、基本 WebSphere 管理テンプレートをデプロイします。
- IBM WebSphere Application Server の主要および詳細領域 (トランザクション、クラスタステータス、キャッシュ使用率、スレッドなど)を監視する場合、詳細 WebSphere 管理テンプレートをデプロイします。
- IBM WebSphere Application Server、Oracle データベース、および基盤インフラストラクチャで構成される複合アプリケーションを監視する場合、詳細 WebSphere および Oracle データベース管理テンプレートをデプロイします。



WebSphere 管理テンプレートを WebSphere セル CI (j2eedomain) にデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理 テンプレート および アスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理 テンプレート および アスペクト]


2. [構成 フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成 フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [IBM WebSphere 管理] > [管理 テンプレート]

3. [管理 テンプレート] フォルダでデプロイする管理 テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成 アイテム]** タブで管理 テンプレートを割り当てる j2ee ドメイン CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、表示されるすべてのパラメータ (ユーザ名 および パスワード) の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ ボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: 設定を続行するには、すべてのパラメータの値を指定する必要があります。

注: 管理 テンプレートのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、「[ユーザの権限](#)」を参照してください。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。
7. **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理 テンプレート レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

注: データ収集用に設定したプロトコルが JSR160RMI である場合は、パラメータの値 ([WebSphere Application Server JMX コネクタ タイプ] および [WebSphere Application Server のポート番号]) を指定する必要があります。

8. **[次へ]** をクリックします。
9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェック ボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

タスク 6b: WebSphere アスペクトのデプロイ

WebSphere アスペクトをデプロイする前に、次の CIT の CI を検出するため WebSphere ベース アスペクトをデプロイする必要があります。

- JVM
- J2EE Application
- JDBC Data Source


WebSphere ベースの аспекトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理 テンプレート および аспекト] ペインを開きます。


[管理] > [監視] > [管理 テンプレート および аспекト] をクリックします。

2. [構成 フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成 フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [IBM WebSphere 管理] > [аспекト] > [WebSphere ベース] をクリックします。


3. [аспекト] フォルダで、**[WebSphere ベース]** をクリックして、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成 アイテム]** タブで WebSphere CI を選択し、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。

注: аспекトをノード CI にデプロイする場合、**[タイプ ノードの CI も表示する]** を選択します。

5. **[必要なパラメータ]** タブで、表示されるすべてのパラメータ (ユーザ名 および パスワード) の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: 設定を続行するには、すべてのパラメータの値を指定する必要があります。

注: 管理 テンプレートのデプロイ時に与えられる資格情報には、OMi MP for IBM WebSphere Application Server のパフォーマンス管理データ収集権限が必要です。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。
7. **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理 テンプレート レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

注: データ収集用に設定したプロトコルがJSR160RMIである場合は、パラメータの値 ([WebSphere Application Server JMX コネクタ タイプ] および [WebSphere Application Server のポート番号]) を指定する必要があります。

8. **[次へ]** をクリックします。
9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。


残りの WebSphere アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。


[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [アプリケーション サーバの管理] > [IBM WebSphere 管理] > [アスペクト]

3. [アスペクト] フォルダでデプロイする WebSphere アスペクトをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで WebSphere アスペクトを割り当てる CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。アイテムを複数選択するには、**[CTRL]** キーや **[SHIFT]** キーを押しながらアイテムを選択してください。**[次へ]** をクリックして CI を確認し、**[必要なパラメータ]** に進みます。

注: アスペクトをノード CI にデプロイする場合、**[タイプノードの CI も表示する]** を選択します。


5. **[必要なパラメータ]** タブで、表示されるすべてのパラメータ (ユーザ名およびパスワード) の値を指定します。これらのパラメータの値を指定するには、パラメータを選択してから  をクリックします。[パラメータの編集] ダイアログボックスが開きます。**[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

注: 設定を続行するには、すべてのパラメータの値を指定する必要があります。

注: WebSphere アスペクトのデプロイ時に与えられる資格情報には、権限が必要です。詳細については、「[ユーザの権限](#)」を参照してください。

6. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** に進みます。

注: データ収集用に設定したプロトコルがJSR160RMIである場合は、パラメータの値 ([WebSphere Application Server JMX コネクタタイプ] および [WebSphere Application Server のポート番号]) を指定する必要があります。

7. **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

注: データ収集用に設定したプロトコルがJSR160RMIである場合は、パラメータの値 ([WebSphere Application Server JMX コネクタタイプ] および [WebSphere Application Server のポート番号]) を指定する必要があります。

8. **[次へ]** をクリックします。
9. (オプション) 割り当てを直ちに有効化しない場合は、**[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

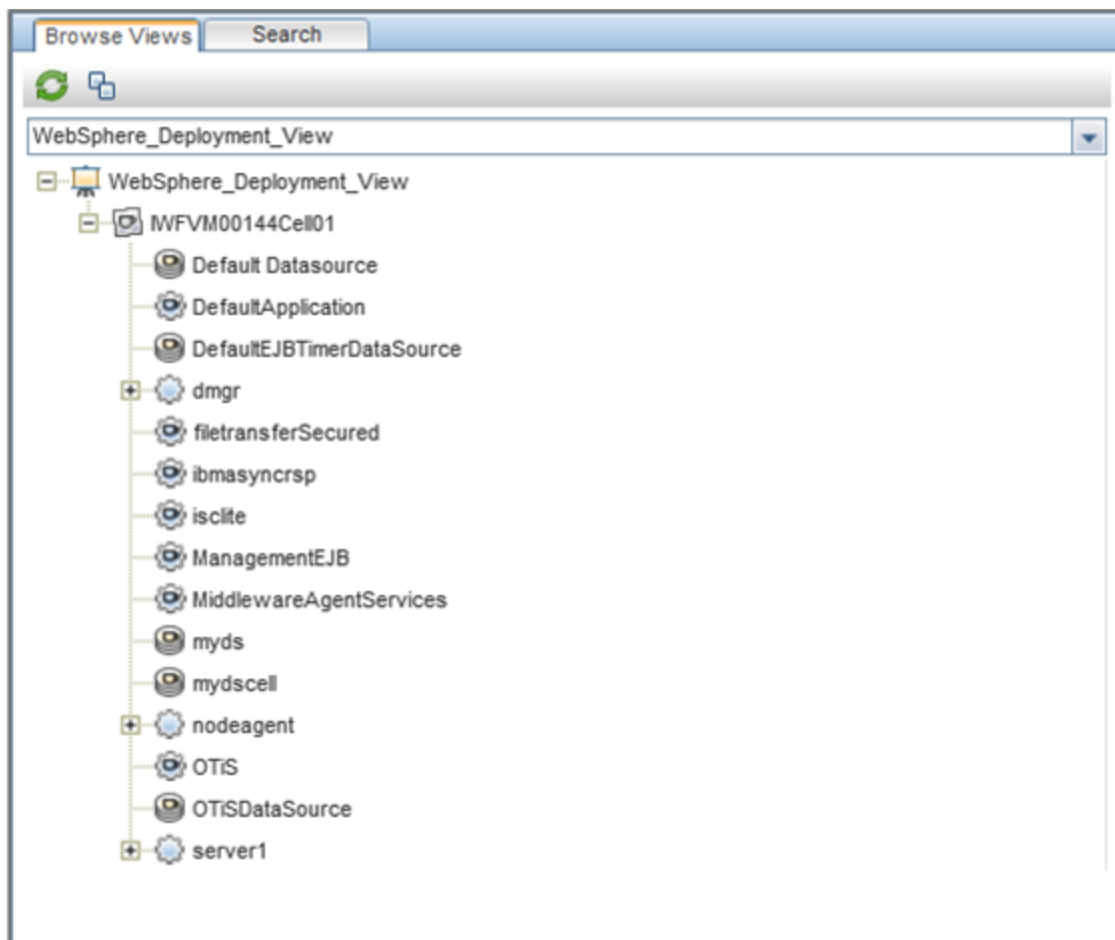
タスク 7: 拡張トポロジの検出の確認

WebSphere 管理テンプレートまたは WebSphere ベースアスペクトをデプロイした後、[View Explorer] に CI が表示されるかどうかを確認できます。

[View Explorer] で CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. OMi コンソールで **[ワークスペース]** > **[操作コンソール]** > **[Event Perspective]** をクリックします。
2. [View Explorer] で、ドロップダウンリストから **[WebSphere_Deployment_View]** を選択します。次の図に示すように、**WebSphere_Deployment_View** に関連付けられている CI から構成される拡張

張トポロジを確認できます。



ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on インストールガイド (OMi Management Pack for IBM WebSphere Application Server 1.00)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。